

補助事業番号： 19-1-013

補助事業名： 平成19年度 自転車文化の普及推進補助事業

補助事業者名： 財団法人 日本自転車普及協会

## 1. 補助事業の概要

### (1) 実施内容

#### ア. 自転車乗用環境に関する啓発等事業

バイロロジー運動の推進を図るためにバイロロジーをすすめる会地方組織に対し、活動助成金を交付したほか、バイロロジー地方組織の統一活動として交通ルールの遵守と自転車乗用マナーの向上を訴えるキャンペーン活動を春・秋の全国交通安全運動期間中および5月の自転車月間にて実施し、バイロロジーの全国的な普及啓発を図った。

また、キャンペーンにおいて配付するグッズ（反射シール）を作成し、バイロロジー地方組織に配付した他、バイロロジー地方組織の活性化を図るため、全国4地区において、バイロロジー地方組織連絡会議を開催した。

#### イ. 自転車文化センター事業

西欧における歴史的自転車や自転車博物館及び自転車競技等に関する情報・資料を収集するために、パリ在住の本会嘱託・小林恵三による海外調査業務を実施し、本年度において12回の調査報告を受けた。また、自転車文化センターの事業の運営における来館者、マスコミ取材（TV・雑誌等）の対応及び自転車関係文献資料整備、ならびにホームページ更新作業等の業務を円滑に行うため、臨時職員2名を雇用したほか、自転車等収蔵資料保管倉庫内の未整理資料の整理・登録や、登録資料の活用・展示企画実施に伴う調査及び収納出庫管理を行った。本年度においては、テレビ朝日等計58件の取材対応及び資料貸出を行った。

また、自転車文化センターの展示内容の充実を図るため書籍等の資料を収集した。収集した資料のうち、国内・外の月刊誌及び機関誌の合本を実施し、来館者の利便に供した。

#### ウ. 自転車文化の普及推進に関する広報

科学技術館内に「北ノ丸サイクル」を出展したほか、常設展示（クラシック自転車撮影コーナー、自転車文化センター紹介パネル掲示等）を、日本サイクルスポーツセンター内にて実施した。

### (2) 成果

#### ア. 自転車乗用環境に関する啓発等事業

バイロロジー総会で決定した運動方針に基づき、全国31のバイロロジー地方組織が「交通安全」統一キャンペーン等様々な活動を展開し、また、地方組織連絡会議を全国4地区

で開催した結果、地方組織の活性化につながり、バイコロジー運動の促進につながった。

#### イ. 自転車文化センター事業

本年度においては、図書・VTR・部品等の新規購入及び寄贈・寄託資料約 1,200 点について、当センター資料データベースに登録を行い、併せて整理保存と情報室内での閲覧利用に供することができた。また、定期刊行物の合本作業を始めとする図書資料の整備や情報提供環境の整備を行ったことにより、来館者に対する情報提供サービス拡充を図ることができた。

その他、「自転車のヘルメット展」を始めとする企画催事を 1 回、また 2 階情報室で 5 回の特別展示を開催して、自転車に関する理解と関心を高めることができた。

#### ウ. 自転車文化の普及推進に関する広報

広告、記事掲載により、バイコロジー運動の社会的役割・意義の理解、認識を深め、また自転車乗用環境のPR等を実施したことにより、啓発が図れた。

また、「北ノ丸サイクル」を出展し、青少年を始めとする多数の来館者に自転車の原理と仕組みを体感してもらうことができたほか、日本サイクルスポーツセンター内に常設展示を行ったことにより、来館者への施設案内誘導効果を高めることができた。

さらに、インターネットホームページ「自転車広場」の内容を継続して製作・保守運用し、当センターの周知と幅広い自転車情報の提供に努め、広く国民の自転車利用に対する意識の向上と興味の喚起を図ることができた。

### (3) 今後予想される効果

#### ア. 自転車乗用環境に関する啓発等事業

現在の社会状況に合致したバイコロジー運動のあり方、基本的な位置づけ、推進体制等を確認しつつ、中央団体・各地方組織ともその基本に添った具体的実践活動を展開してきたことから、バイコロジー運動のより深い浸透が図られるとともに、今後は国及び地方自治体における自転車乗用環境の整備促進や自転車の健全な普及が進むものと予想される。

また、地方組織連絡会議を開催したことにより、各地域におけるバイコロジー運動の普及推進が進み、地方組織の一層の活性化、拡充が期待できる。

#### イ. 自転車文化センター事業

収蔵資料の調査分類及び購入・寄贈等により収集した図書等の資料の整理を進めたことにより、近年増加傾向にあるマスコミ及び関係機関からの問い合わせや、来館者をはじめとする多くの人々に迅速に対応できる情報提供体制が確立され、自転車に関する正しい知識の普及が促進するものと予想される。

また、文化センター館内での展示活動のほかに、幅広い客層が来場する外部会場で催事を開催したが、この催事により、施設来館者をはじめとする多くの人々の自転車への関心が高まり、自転車に関する正しい知識の普及や、環境・健康・趣味といった多様なテーマの自転車利用がより一層普及すると期待できる。

#### ウ. 自転車文化の普及推進に関する広報

広告、記事掲載によるバイロロジー運動の普及啓発が図れる。また、自転車乗用環境のPR等を実施したことにより、環境整備に関し、行政ならびに市民に対し意識の高揚が図れることが予想される。

また、青少年を始めとする幅広い客層が来場する科学技術館において、来場者の興味と関心に合致した自転車の原理と仕組みや歴史にまつわる展示を行うことにより、広く一般に自転車への関心を惹起し理解を促進できるものと期待できる。日本サイクルスポーツセンター内の常設展示により本センターの周知が図られ、来館者の増加が予想されるほか、インターネットホームページ「自転車広場」により施設に直接来場できない多くの人々にも情報を提供し、自転車に関する正しい知識の一層の普及が期待できる。

## 2. 本事業により作成した印刷物等

特になし

## 3. 事業内容についての問い合わせ先

団体名 : 財団法人 日本自転車普及協会(ニホンジテンシャフキュウキョウカイ)

住所 : 107-0052

東京都港区赤坂 1-9-3

代表者 : 会長 阿部 毅一郎(アベ キイチロウ)

担当部署 : 事業第1部

担当者名 : 部長 山本 耕治(ヤマモト コウジ)

電話番号 : 03-3586-3278

F A X : 03-3586-9782

E-mail : jifukyo@jifu.jp

U R L : <http://www.bpaj.or.jp>